(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3993311号
(P3993311)
(45)発行日　平成19年10月17日(2007.10.17)　(24)登録日　平成19年8月3日(2007.8.3)

(51)Int.Cl.　　F I
G09B 11/04 (2006.01)　　G09B 11/04
B42D 15/00 (2006.01)　　B42D 15/00　301Q

請求項の数 2　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願平10-185072
(22)出願日　平成10年6月30日(1998.6.30)
(65)公開番号　特開2000-15959(P2000-15959A)
(43)公開日　平成12年1月18日(2000.1.18)
審査請求日　平成17年6月29日(2005.6.29)

(73)特許権者　393014095
木山　稔
福岡県福岡市城南区片江３－２０－３８
(74)代理人　100080160
弁理士　松尾　憲一郎
(72)発明者　木山　稔
福岡県福岡市城南区片江３－２０－３８

審査官　宮本　昭彦

(56)参考文献　特開平１０－１８１２５２（ＪＰ，Ａ）
特開平８－１８５１１５（ＪＰ，Ａ）
実開昭６０－１６１３７９（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６３－８７６８（ＪＰ，Ｕ）
実開平３－４３６７７（ＪＰ，Ｕ）
最終頁に続く

(54)【発明の名称】習字練習用紙

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
一文字の漢字を複数の文字構成要素に分解し、各分解した文字構成要素を油性の印刷用インクで和紙上に印刷すると共に、文字構成要素は毛筆筆跡の外周縁を縁取った縁取り線に、毛筆の筆先の運筆通過線を縁取り線より大きい太線で表記したことを特徴とする習字練習用紙。
【請求項２】
和紙上に文字構成要素を印刷するために使用する油性の印刷用インクは赤色系統の色を用いることを特徴とする請求項１記載の習字練習用紙。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
この発明は、習字練習用紙に関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来、日本語の漢字や平仮名等を正しい型に書くためには、予め正しい型の文字を何度もなぞって、いわゆる体で型を覚えるという訓練が必要とされていた。
【０００３】
従って、正しい文字が予め印刷された練習用紙を用意し、その正しい文字の上から硬筆或は毛筆でなぞって正しい文字の型が記憶されるようにしたものがあったり、仮想の正しい

文字型の要所にマークを付して、マークを目印にして正しい文字を創作しながら型を覚えるようにした練習用紙があったり、正しい文字の型の上面に方眼枠を付して、文字の型のバランスを覚えるようにしたもの等各種のものがある。

【０００４】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、これらの練習用紙は一つの文字全体を一気に完成するような練習の仕方に構成されているため、複雑な漢字の場合は一文字を一気に正しい型で完成することは困難であり、書き初め部分と書き終りの部分とのバランスがとれない場合が多く、特に複雑な一文字の漢字を構成する構成要素が多いもの程、かかる傾向が強くなる。

【０００５】

また、特に毛筆の場合は、毛筆の穂先の動きの軌跡を練習文字に表わしたものがないため、毛筆による文字の太さ、すなわち線の幅員と形にのみ気をとられて、毛筆文字で最も大切な穂先の動きにともなう線の太さの形成が忘れられてしまうおそれがあり、毛筆の、いわゆる「筆の運び」が正確に練習できない欠点があった。

【０００６】

【課題を解決するための手段】

この発明は、一文字の漢字を複数の文字構成要素に分解し、各分解した文字構成要素を油性の印刷用インクで和紙上に印刷すると共に、文字構成要素は毛筆筆跡の外周縁を縁取った縁取り線に、毛筆の筆先の運筆通過線を縁取り線より大きい太線で表記したことを特徴とする習字練習用紙を提供せんとするものである。

【０００７】

また、この発明は、和紙上に文字構成要素を印刷するために使用する油性の印刷用インクは赤色系統の色を用いることにも特徴を有する。

【０００８】

【発明の実施の形態】

この発明では、毛筆により一文字の漢字の型を練習する場合は、まずこの漢字を分解した文字構成要素毎の練習型をなぞって練習し、各文字構成要素の練習が終了した後に、各文字構成要素を組合わせて形成された一文字の漢字を練習することになる。

【０００９】

そして、毛筆で練習する場合には、毛筆の太線で表記した毛筆の穂先の運筆通過線に沿って穂先をなぞっていきながら太線を画くことにより文字構成要素及び一文字の漢字の毛筆練習を行うものである。

【００１０】

特に、文字構成要素は赤系統の油性の印刷用インクで表記されているため、太線の運筆通過線を筆先でなぞった場合、墨が太線の油性により太線上ではじかれて筆先が正確に運筆通過線をなぞったか否かを視認しながら運筆できるものである。

【００１１】

【実施例】

この発明の実施例を図面に基づき詳説すると、図１、図２に示すのは、本発明の文字練習用紙Ａを示すものであり、文字練習用紙Ａには、例えば、「星」という一文字の漢字１を「日」と「生」の二個の文字構成要素2-1,2-2 に分解したものを赤系統の色として朱色で印刷している。

【００１２】

文字練習用紙Ａの材質は、和紙である。

【００１３】

文字構成要素2-1,2-2 は、それぞれ一枚の和紙に複数個印刷されており、３は、この文字構成要素2-1,2-2 により構成される１文字の漢字のうち、どの部分の文字構成要素であるかを明示した文字表示部であり、縦長方形の用紙Ｐの右上隅部に表示されている。

【００１４】

和紙への印刷は油性の印刷用インクを用いて行われる。

【００１５】
すなわち、墨で毛筆により表記した線がインク上ではじいて印刷インク部分以外の表記墨部分との区別が視認できるようにしたことに本発明の特徴の一つがある。
【００１６】
また、例示としての「星」の漢字１の一構成要素となる「日」の文字構成要素2-1 は、図１に示すように毛筆にて書した場合の毛筆筆跡の外周縁を縁取った朱色の縁取り線４にて表示されている。
【００１７】
しかも、この縁取り線４には、毛筆の筆先の運筆通過線５を朱色で表記しており、縁取り線４よりやや太目の太線としている。
【００１８】
これらの、文字構成要素2-1 の縁取り線４と運筆通過線５とにより練習型が形成されるものであり、この練習型は、一枚の用紙Ｐに６～７個印刷表示されている。
【００１９】
６は、文字構成要素2-1 において、運筆線の間隔を表示するための破線状の円を示し、７は、の文字構成要素2-1 の幅員の限度を示す幅線を示す。
【００２０】
なお、縁取り線４は、破線で表示してもよい。
【００２１】
図２に示すものは、例示としての「星」の漢字１の他構成要素となる「生」の文字構成要素2-2 を練習型Ｍとして表示したものであり、円６、幅線７は上記した通りである。
【００２２】
ここで、毛筆の筆先の運筆通過線５の機能を図５にもとづき詳細に説明すると、毛筆Ｈで各文字構成要素2-1 を練習する場合に、毛筆Ｈの筆先H-1 を運筆通過線５に沿って当てがいながら、筆先H-1 を一定の力で押圧することにより筆先H-1 より上部の筆肉太部H-2 を縁取り線４で囲まれた筆跡内に押し当て収まるように運筆するものであり、このように筆先H-1 を油性の印刷用インクで印刷した運筆通過線５に沿って運筆しながら筆肉太部H-2 を縁取り線４の枠内に押し当てていけば、毛筆Ｈによる正しい筆跡H-2 が完成する。
【００２３】
図３に示すものは、各文字構成要素2-1,2-2 より構成した漢字１を練習するために一枚の用紙Ｐに印刷表示した漢字であり、本実施例の例示では「星」の漢字が表示されており、この「星」の漢字も、毛筆による縁取り線４と、毛筆の筆先の運筆通過線５が表示されて、上記した各文字構成要素2-1,2-2 の毛筆による練習と同じ方法で運筆練習が行える。
【００２４】
図中８は、一文字の漢字の全体バランスを整え、学ぶために漢字の周辺に方形枠を破線で表示し、方形枠内に対角線や中央線を破線で表示して構成した枠線を示す。
【００２５】
また、図４に示すものは、例示としての一文字の漢字１を「夜」とした場合に、この「夜」の漢字を三個の文字構成要素2-1,2-2,2-3 に分解すると共に、これらを合成した漢字を表示したものであり、これらの各文字構成要素2-1,2-2,2-3 は一枚の用紙Ｐにすべて印刷表示されており、上記した実施例と同様に、縁取り線４や筆先の運筆通過線５や破線による円６や幅線７や枠線８が表示されている。
【００２６】
この発明の実施例は上記のように構成されているものであり、毛筆にて漢字１の練習を行う場合には、まず漢字１を構成する各文字構成要素2-1,2-2,2-3 のそれぞれから練習を始める。
【００２７】
すなわち、「星」の漢字の練習を毛筆にて行う場合には、まず「日」と「生」とを別々に練習する。
【００２８】

練習に際しては、毛筆Ｈの筆先H-1 を運筆通過線５に沿って運筆なしがら、筆先より上部の筆肉太部H-2 を縁取り線４内に収まるように押圧しながら運筆することにより正しい毛筆の漢字が完成する。

【００２９】

この場合、太線の運筆通過線５は、油性の印刷用インクで朱色で表記されているため、この運筆通過線５上を毛筆の筆先H-1 の墨でなぞると、正しい運筆の場合は墨が適当に太線の油性のインク上ではじかれて正しく運筆通過線５上を運筆したことが視認できる。

【００３０】

しかし、仮に筆先H-1 が運筆通過線５をずれて線外にはみ出していたり、充分に運筆通過線５内に収まっていない時には油性のインクで墨がはじかれている部分と、それ以外の和紙に浸潤した墨の部分との差が明確に視認でき、自分の筆先H-1 の運筆の正しさの是否を確認することができるものである。

【００３１】

更には、運筆通過線５が朱色であるために、墨が油性のインクではじかれる場合、墨のはじかれた部分の視認が極めて容易となるものである。

【００３２】

このように、各文字構成要素の運筆練習を行った後に、全体の漢字１の運筆練習を行い、全体のバランス等を考慮しながら正しい漢字運筆を習得することになる。

【００３３】

【発明の効果】

この発明によれば、請求項１に示すように一文字の漢字を複数の文字構成要素に分解して、各分解した文字構成要素を和紙に油性の印刷用インクで印刷したので、一気に複雑な漢字の練習を行うよりは、漢字を構成する要素毎に練習を行う方が習得が速く、また確実に単純な文字構成要素の運筆を覚えることができ、後は、単にその組合わせの運筆を行なえば所望の漢字の筆記が完成するため、基本的な運筆から上級の複雑な運筆という段階的な練習が可能となる効果を有する。

【００３４】

更には、予め表示された筆先の運筆通過線をなぞるように筆先を運筆すれば、筆跡の外周縁を縁取った縁取り線中に、毛筆の筆跡を収めやすく、毛筆による筆跡の線の太さや、運始部分及び曲り部分の筆の留めが理解しやすく、正確な毛筆の運筆が行える効果がある。

【００３５】

しかも、毛筆の筆先がなぞる運筆通過線が油性のインクで墨をはじくので、正しく筆先が運筆通過線をなぞったか否かを運筆しながら視認できる効果があり、運筆上達に大きな貢献をする。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明文字練習用紙の実施例を示す正面図。

【図２】他の実施例を示す正面図。

【図３】他の実施例を示す正面図。

【図４】他の実施例を示す正面図。

【図５】毛筆による運筆状態を示す説明図。

【符号の説明】

Ａ　文字練習用紙

Ｐ　用紙

Ｈ　毛筆

H-1　筆先

H-2　筆肉太部

１　漢字

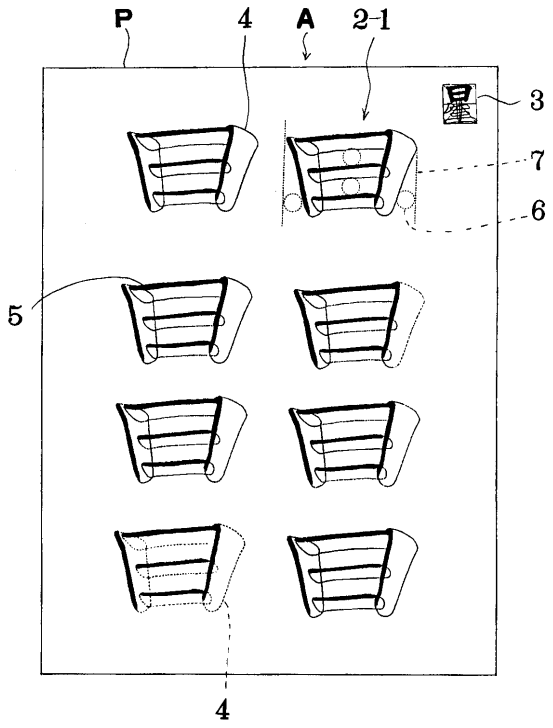
2-1　文字構成要素

2-2　文字構成要素

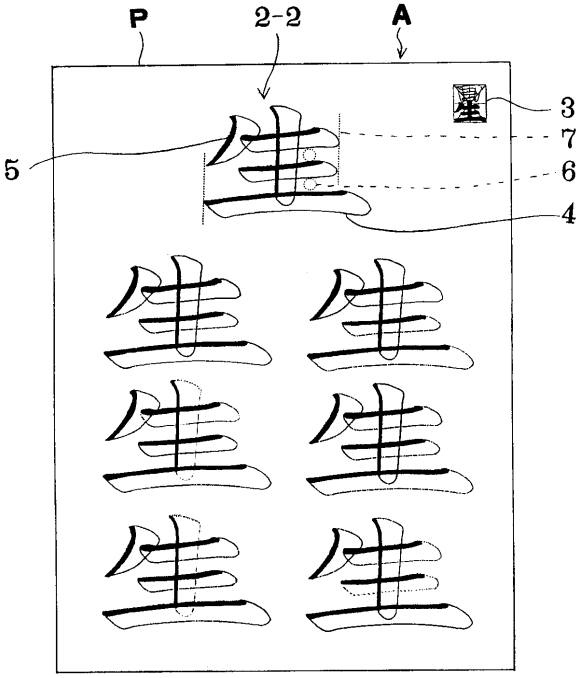
３　文字表示部

4　縁取り線
5　運筆通過線
6　円
7　幅線
8　枠線

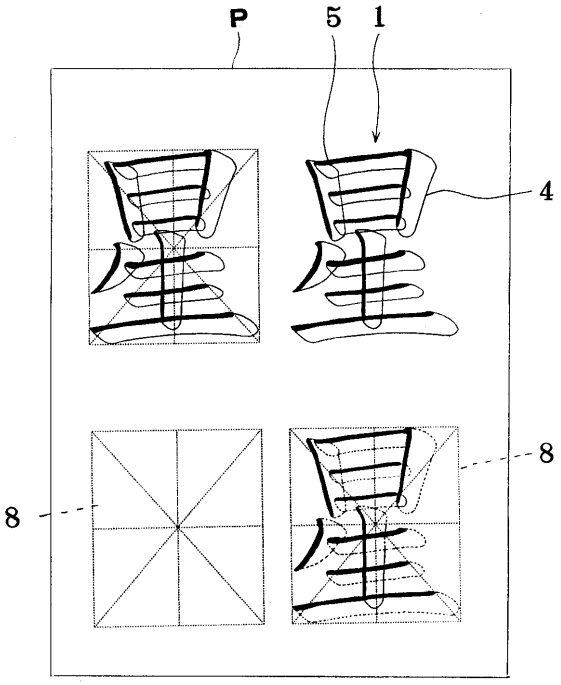
【図１】



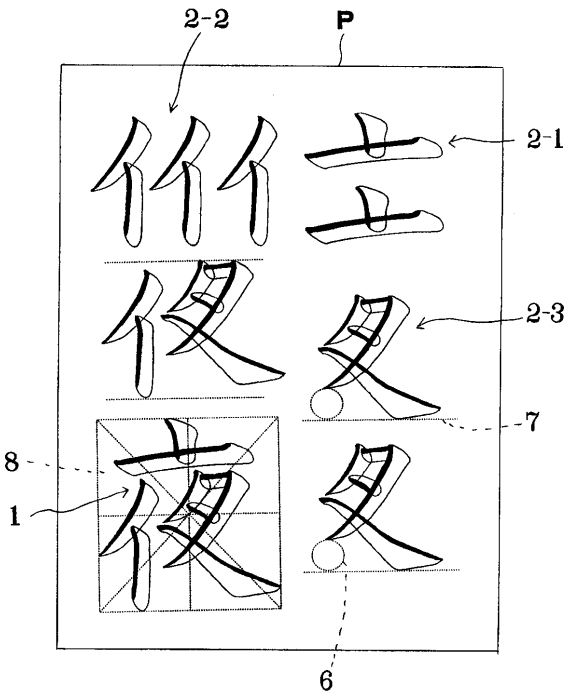
【図２】



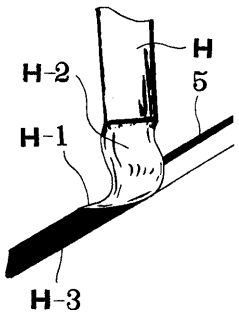
【図３】



【図４】



【図５】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., ＤＢ名)

G09B 11/00 - 11/06

G09B 19/24

B42D 15/00